令和7年度（2025年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

令和8年（2026年）11月10日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館サービス基本計画（令和5年度（2023年度）－令和14年度（2032年度））」において、図書館が目指す3つの基本目標と、その目標を具体化するための個別の図書館サービス事業として9つのサービス方針を掲げています。

この基本計画に基づいて設定した「令和7年度 吹田市立図書館の目標」に対し、自己評価と外部評価を行います。（項番の前に★印を付けた目標は、令和7年度の重点取組です。）

※令和7年度（2025年度）の吹田市立図書館の活動については、「吹田市の図書館活動<令和7年度（2025年度）統計>」として、図書館ホームページで公表しています。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 **地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。**

基本目標 2 **生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。**

基本目標 3 **子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。**

指標の評価基準について

【数値目標】

A	数値目標を達成	100%以上
B	数値目標をやや下回った	70%～100%未満
C	改善が必要	70%未満

※数値に関する指標について、目標が「経年比増」とあるものは、令和6年度の実績値を100 とし、令和7年度実績値が 100%以上のものをA、70%～100%未満のものはB、70%未満であればCとします。

【実施目標】

A	達成	目標に対し順調に進めることができた
B	一部達成	目標の一部のみ進めることができた
C	未達成	取組はしたものの目標を進めることができなかった

基本目標1　地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

サービス方針1　資料と情報の提供

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

★1　行政資料をはじめとするデジタル資料の収集方針を定め、保存を進めるとともに提供方法の検討を進めます。

2　児童書の年齢別リストについて、小学生向け3種類を改訂します。

3　蔵書の更新や各館の特色に応じた資料の収集・保存など、適正な資料管理に努めます。

★4　司書によるレファレンス（＊1）や予約サービスなど図書館サービスの基本的な情報を市職員に対しても幅広く周知し、本市の政策形成に必要な資料及び情報を提供する行政支援サービス（＊2）の利用促進を図ります。

・行政資料に関するデジタル資料の収集について、一定の方針をまとめることができました。

・出版状況や時代のニーズに対応するため、児童書の年齢別リストのうち、小学生向け3種類を令和8年3月に改訂しました。

・令和7年度末の図書所蔵数は約120万冊（うち開架図書比率：58.2%）となっています。蔵書の更新や、各館の特色に応じた資料の収集・保存に努めました。

＜各館の特色＞

中央：地域・行政、千里：多文化、江坂：ビジネス支援、さんくす：就労・就業支援、

ちさと：障がい者向け、山田駅前：YA 向け、健都：健康・医療

・個人貸出点数は約355.8万点（電子書籍を含む）で、前年度より約14.8万点減少しました。いずれの館・室でも減少しており、特に視聴覚資料が約2.5万点減少しています（令和6年度：約370.6万点　うち視聴覚資料　約20.9万点）。市民一人当たりの貸出点数も9.2点で、前年度より減少しました。（令和6年度：9.6点）

・予約受付件数は約122.1万件で、前年度より減少しました。（令和6年度：約126.9万件）個人貸出点数及び予約受付件数の減少の主な理由は、図書館電算システムの更新のため、年末年始に、例年より長期の休館期間（12月28日から翌年1月8日までの18日間）を設けたことによります。

・日本全国ランキング（注）で見ると、人口30万人以上の市区（政令指定都市を除く）で、個人貸出数は令和3年度から4年連続、予約件数は平成23年度から14年連続でベスト10入りしています。今後も市民の身近な図書館として役立つサービスを継続的に提供できるように努めます。

（注）「図書館年鑑　2026」（日本図書館協会　2026年7月31日刊）なお、ランキングは令和6年度統計が最新。

・ 令和3年度に運用を開始した「すいた電子図書館」では、継続しての読み放題パックの導入や利用促進のポスター掲示等を行い、貸出数（約 14.9 万回）、予約数（約1.2万件）ともに増加しました。（令和6年度：貸出数約 12.5 万回、予約数約1万件）
・ 行政支援サービスに関しては、レファレンス受付件数は7件、公用での資料貸出が115冊でした。（令和6年度：レファレンス受付件数8件、資料貸出216冊）また、行政に関連する新着図書一覧を庁内ポータルサイトに、計10回掲載しました。
・ 指標であるレファレンス受付件数は約1.1万件で、前年度より減少しました。（令和6年度：約1.3万件）AIを活用した情報収集技術が向上する中で、より一層図書館のレファレンスを周知し、利用を促進する必要があります。また、レファレンスに関するロールプレイング形式の実践的な研修を行い、技術の継承・向上を図りました。

（指標）レファレンス受付件数（※）			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
10,455件	経年比増 （令和6年度実績：12,763件）	11,192件	B

※利用者、他自治体、行政、学校などから受けた質問の総件数。

【図書館協議会委員の意見】

◎貸出数やレファレンス件数の減少はメディア環境の変化等を考慮すると、それほど悲観的になる必要はないと考えます。ただし、レファレンス質問の内容面についての精査は必要で、市民ニーズを把握するためにも、どのような主題でどんなニーズがあるのかを知る手がかりとして活用いただきたいと考えます。

◎休館期間を考慮すると、利用者数や貸出数は概ね維持できているものと考えます。

◎全国ランキングの個人貸出し率などの統計からしてすごく頑張っている図書館サービスだと思います。視聴覚資料の貸出しの減少は各人のサブスクの普及などが影響していると思われます。

◎令和7年末の図書館システム更新の時期のため数値が減っているのであれば、開館している利用できた日数で数値を出す方法はないのでしょうか。

◎行政資料に関するデジタル資料収集の方針の策定や児童書の年齢別リストの改訂など、着実に取組を進められていると思います。

◎AIについて書かれていましたが、私もAIで自分の好きそうな本の候補を検索し、図書館で探したりしています。レファレンスには、ウェブ上に情報の少ない過去の書籍や専門的な知識などが今後求められるのかもしれません。（専門的で正確な情報をAIで出させるのは難しいので）

◎もともとの目標を設定した際にはこれほどAIが普及することは想定されていなかったと思い

ます。AI時代にこそ必要となるレファレンスの意義をどう訴えていくかが課題となるように思います。うまくAIと役割分担できるような形を見いだせていければよいと思います。

◎今後、AIと司書のレファレンスがどのように共存していくかが課題だと思います。

◎私が利用している近隣の図書館でのレファレンスは、利用者が多くなってきているように感じています。いつも誰かが座って質問をしていて、時間をずらしていくこともあるようになりました。吹田の図書館のレファレンス以前からとても優秀だと思っています。もっと利用者として周囲に認知してもらいたいと願っています。

◎児童書の年齢別リストの更新が定期的に行われているのは、評価できると思います。

◎時代の変化に関わらずニーズの高い定番図書もあるが、児童書の年齢別リストが改訂され、タイムリーに新しい情報が提供されることは、利用者のニーズに応える上でも大変有効であると考えます。

◎電子書籍の貸出しが、いろんな工夫で増えていて、いいと思います。今後ともさらなる浸透を図ってください。

◎「すいた電子図書館」の充実度が上がり、どのような本が収載されているのか、またよくわからなくても一度覗いてみようかという気が起こり、色々触ってみましたが、面白くて大変わかりやすかったです。

◎「すいた電子図書館」で導入されている読み放題パックは魅力的です。旅行ガイドブック「るるぶ」は、電子化されていることで持ち運びしやすく、読み物としてだけでなく、旅先での便利ツールとしての活用も可能で満足度が高いです。

サービス方針2 バリアフリー読書支援サービス

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1 利用者の要望や意見をサービス改善に役立てるため、「障がい者サービス利用者懇談会」を開催します。

2 市立図書館で製作したアクセシブルな書籍等（録音図書、点字図書、さわる絵本）を全国で利用できるよう、サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）図書館（*3）と国立国会図書館へのデータ提供を継続します。また、それらの資料を製作する音訳者、点訳者の養成講座を開催します。

3 市立図書館が提供しているバリアフリー読書支援サービスについて周知するために、利用案内等の発行物や図書館ホームページのコンテンツの充実を図ります。
また、障がい福祉室をはじめとする他部署との協力・連携をしながら、広報・宣伝活動を展開していきます。

4 多様な読書方法への興味や関心を抱くきっかけづくりとして、体験型イベント「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を引き続き開催します。

・「障がい者サービス利用者懇談会」を開催し、電話で各サービスに対する御要望を聞き取り、サービス改善に努めました。（対象者97名のうち参加者75名）
・ 令和7年度は、音声デイジー図書（＊4）76点、点字図書46点、さわる絵本（＊5）2点をサピエ図書館や国立国会図書館へデータ提供を行いました。
・ 市立図書館が提供しているバリアフリー読書支援サービスについて周知するために、利用案内を改訂しました。また、障がい福祉室と連携して、障がいの有無にかかわらない“共生社会”の実現を目指したイベント「すいたCOCOROフェス」に参加しました。
・ 図書館が提供しているサービスの内容や利用方法を周知する「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を昨年度に引き続き開催し、41人の参加があり好評でした。
・ 子供向けには「えほんのじかんユニバーサル」や「手話よみきかせ」などの行事を、各図書館で32回行いました。

（指標）アクセシブルな書籍等の年間貸出点数（※）			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
31,803件	経年比増（令和6年度実績：33,086 件）	32,663件	B

※デイジー図書、テープ図書、点訳図書、さわる絵本のダウンロード数及び総貸出数。

【図書館協議会委員の意見】
◎概ね良いと思います。こういった支援サービスは、継続し続けることが大切かと思いますので、今後も利用案内や行事の実施を続けていただければと思います。
◎バリアフリー読書支援を市民全体へ周知する取組を継続して行っていく必要性がますます高まっていると思いますので、活動を継続していただきたいと考えます。
◎きめ細やかな取組だと思います。特に「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」などの催しは魅力的だと思います。
◎「障がい者サービス利用者懇談会」を通じ、継続して利用者のニーズ把握とそれに基づくサービス改善に取り組まれていることは高く評価できます。すでにサービスを利用されている方の声を、まだサービスが届いていない潜在的利用者を図書館につなげる取組にも生かしていただければと思います。
◎「障がい者サービス利用者懇談会」について、利用者とボランティア、市役所の担当者が直接顔を合わせ、意見交換できる貴重な場である懇談会をぜひ、コロナ禍前のように対面でおこなってください。図書館の担当者が電話で聞き取るだけでない大事な声が聴けると思います。
◎アクセシブルな書籍等の資料を充実させることは、バリアフリーの観点からも不可欠であり、今後もデータ提供の継続・拡大に期待します。また、資料製作者の養成講座の開催も積極

的に行われたい。

◎Amazonのオーディブルもかなり充実しているので、貸出し用の電子書籍にそういったものを追加することも検討してはどうか。

◎バリアフリー読書支援サービスについて、図書館が提供しているサービスや利用方法の普及活動を継続的に行われている結果、40名を超える参加があったこと、多種に渡るバリアフリー行事も多く実現できていることから、市民への周知も増えつつあるのではないかと思います。

◎体験型イベントは、読書に対する意識を高めるきっかけに繋がるものだと考えます。「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」のイベント名称も期待感向上につながり、よいと感じます。

◎市役所担当部署のイベントに参加されたことは、イベントに参加される市民とともに、市役所内部への図書館サービスの周知にも資するものであり、良い取組と思います。

◎「えほんのじかんユニバーサル」や「手話よみきかせ」などの行事が32回も開催されていて、感心しました。吹田の子供たちのためにも、ずっと定着することを願います。

◎千里山・佐井寺図書館で行われている、聴覚障がいのある方たちの手話絵本の読み聞かせの会に参加しました。会場には、障がいのある方もない方も集まっていて、区別なく一緒に楽しめました。誰も構えたところなく、スムーズで、小さな子供たちだけなく、大人たちも笑顔で絵本をたのしみ、とても良い時間を過ごせました。このような会が図書館で開催されることを誇りに思います。参加は市報や行事予定を確認すれば可能ですが、より効果的な告知方法はないでしょうか。ユニバーサル絵本の会や手話の会が、どこの図書館でも当たり前に定期開催されることを願っています。

サービス方針3 持続可能な運営

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1 図書館サービスを取り巻く環境変化や新たな課題に対応しつつ、キャリア形成の段階に応じて専門的能力を発揮できるよう、計画的な研修受講をすすめます。

★2 職員のキャリア形成に資するよう各段階に求められる能力と、それに応じた研修の体系図を作成します。特に地域資料サービスに関する人材の育成について、早急に方策を定め、研修を進めます。

3 企画書の電子決裁や発注業務に関する電子請求サービスの導入等、本市の自治体システムを利用し、事務の簡素化を行います。

4 わかりやすく魅力的なホームページを構築するとともに、資料の検索ページや個人ページ等の機能の向上により、便利で快適に利用できる図書館電算システムへの更新を目指します。

・ 司書の専門研修の受講基準に基づき、職員の研修受講を進めるとともに、館内での研修も実施し、職員のスキルアップに取り組みました。館外の専門研修には、延べ86人の職員が参加しました。
・ 職員のキャリアに資するよう各段階に求められる能力と、それに応じた研修をまとめた「吹田市立図書館人材育成方針」を策定しました。
・ 地域資料サービスに関して、担当年数の浅い職員を対象に実務的な研修を実施しました。
・ 本市の電子決裁システムを利用することで、企画に関する事務が軽減できました。また、電子請求サービス等において事業者の協力を得られ、関連事務の時間が短縮できました。
・ 図書館のオンライン利用登録や中央図書館自習室のオンライン座席予約の新しいサービスを導入しました。また、これまでの蔵書検索に、電子図書館との一括検索、Web書棚、館内書架図表示の新たな機能を追加しました。

（指標）ICTの活用		
令和7年度		評 価
目 標	実 績	
次期図書館電算システムの稼働	新図書館電算システムの稼働	A

【図書館協議会委員の意見】
◎館外の専門研修が減っている自治体がある中、これからも充実を図ってください。
◎職場を離れての研修機会をもつ意義は大きいと考えます。客観的に所属館を捉え、新たな視点を獲得したり、比較・分析等を行ったりすることに繋がり、運営組織のボトムアップが図れるのではないでしょうか。
◎「吹田市立図書館人材育成方針」の策定により、職員に求められる能力等を段階的に示すことは、自身のステージを確認しながら専門性を高めていくことができ、有効性が高い。
◎策定された「吹田市立図書館人材育成方針」は、求められるスキルとその習得手段となる職務経験および研修がわかりやすく整理されており、大変有用な指針かと考えます。よい図書館サービスを支えるのは職員であり、図書館業務と理念、地域と利用者の実情に通じた職員を育成するには、「方針」に示されるように年月を要します。「方針」に沿った人材育成を着実にすすめ、各段階の人数構成のバランスにも留意しながら、吹田市立図書館の充実したサービス提供が将来にわたって持続可能となる職員体制を構築していただきたいと思います。
◎レファレンス・サービスなどには様々な知識・経験が必要なので、職員にも、中途採用など、様々なキャリアの人がいた方がよいのではないでしょうか。
◎電子システムの導入および利用に伴い、様々な業務や事務作業が簡素化され、時間軽減が図れることで、汎用性のある時間を生み出すことも可能であり、それによるサービス向上の取組に期待します。

◎問題ないかと思います。ウェブサイトは本当に便利になったと利用していて感じます。
◎システム更新により、いろいろ便利になってよかったです。書架図がいいという声を聞きました。
◎図書館のHPがリニューアルされ、見やすく・使いやすくなりました。視覚的にもコンパクトな形で構成されており、検索機能が向上したと感じます。HP画面を閲覧するだけでも楽しく、あちこちボタンを押下したくなります。今回のリニューアルは大変良いものであったと思いました。
◎中央図書館にある自習室の座席予約システムについて、大変良い印象で、実際に何度か利用しましたが、確実に席が確保できるので、安心感があります。このような方法は、利便性もよく、自習室を利用したい市民にとって、安心できるサービスではないでしょうか。
◎HPなど刷新されて、運営がスムーズになったのは良かったです。 未購入の新刊などの貸出し申請がWebからできるようになればありがたいです。 新刊の購入がもう少し早ければなと思います。

基本目標2　生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

サービス方針4　利用促進

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）
1　新規サービスはもとより、図書館サービスの基本的な情報を利用者に周知するため、ホームページやSNSでわかりやすく紹介します。
2　現在図書館を利用していない市民へ利用を促すため、市役所本庁舎などでの年一回以上の図書館外におけるPR活動や吹田市生涯学習出前講座（＊6）、講師派遣の取組を引き続き行います。
3　施設の魅力向上を通じて施設の年間入館者数増を目指します。
　　（参考）「吹田市第4次総合計画基本計画改訂版」における
　　指標　222.0万人（令和10年度）
4　子供から大人まで、読書や本の世界をより楽しめるような講座を企画するほか、読書以外に興味がある市民にも図書館に足を運んでもらえるよう幅広い内容の講座企画や取組を進め、図書館の利用促進を図ります。

・ホームページを令和8年1月にリニューアルし、トップページに当日の開館情報を新たに掲載するなどわかりやすい表示を工夫しました。
・本庁ロビーにて出張利用者登録会を10月に開催しました。2日間で14人の登録があり、ブックスタートの絵本の配付や電子図書館の説明などを行いました。また吹田市生涯学習出前講座は5回、講師派遣は11回行いました。

・年間入館者数は約219.6万人と昨年度より約8.8万人増加しました。（令和6年度：約210.8万人）
・朗読会や工作教室など様々な講座を企画・開催し図書館の利用促進を図りました。

（指標）市民の利用登録率			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
25.0%	29.0%	27.4%	B

※実績の数は登録者数（市内のみ）を令和8年3月末の人口で除したもの

【図書館協議会委員の意見】
◎図書館が読書空間のみならず、憩いの場や集いの場として利用されることも、魅力的な公共施設になるために必要だと考えます。足を運んでもらえる（足を運びたくなる）ような講座企画等の取組の継続・拡大を進めてもらいたい。利用者の生活の中に図書館が位置づいてほしいです。
◎ウェブサイトが便利になったことによる利用促進効果は高いのではと思います。
◎リニューアルされたホームページは、トップページに必要な情報が集約されており、わかりやすいと感じます。ただ、ページ全体の印象として「かたい」印象を受けます。文字の字体をUD体や丸ゴシック体等に変更するだけでも印象が変わるかもしれません。
◎多くの媒体で広報を展開することは大変負担の大きいことかと思いますが、SNSを使ったプッシュ型の広報は長期的には重要になるかと思います。Xについては、ホームページに掲載されているコンテンツを紹介する形で、イベント情報や、ダイアリーの情報などを投稿されると、コンテンツに幅が出て魅力がアップするのではないかと感じました。X経由のホームページアクセス増が見込めるほか、Xで拡散してイベントや図書館の認知度向上にもつながる可能性があるように思います。
◎Myライブラリーカードがアプリになると便利だと思いました。
◎図書館利用には、直接対面での説明が非常に効果的だと思います。市役所での出張登録会は有意義な取組であり、他の場所でも実施できるといいと思います。システム上の問題などあるかもしれませんが、回数を増やすなどできないでしょうか。
先日、山田駅前の図書館見学に参加しました。地域の図書館ではありませんが、利用したことはあり、ある程度知っているつもりでした。見学では図書館員の説明を聞きながら施設や書架を観察し、各コーナーの椅子に座るなど空間を体感しました。その後の話合いも含め、長い時間ではありませんでしたが、図書館での出会いを発見の時間でした。
市民団体としての参加でしたが、このような見学会を年に一度でも各図書館が一般市民に向けて開催すれば、利用者の愛着や関心を高める効果が期待できます。図書館員から施設の特徴や本について直接聞くことで、既に利用している人も初めての人も地域の図書館への愛着が深まり、もっと利用するようになると思いました。
◎利用登録率、年間入館者数ともに増加し、図書館の取組が実を結びつつあると思います。

◎貸出し冊数が減少したにもかかわらず入館者数は増加していることが興味深いです。これからの図書館のあり方として、かならずしも本の貸出しにこだわらず、自習やイベント参加、調べものといった多様な活用方法を探っていく、みたいな考え方も必要かもしれないです。

◎自習室や学習室の設置、多岐にわたる様々な催し物の企画などとても素晴らしいと思います。 地域の人が集まる貴重な施設になっています。

サービス方針5 特色あるサービス

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

健康・医療情報サービス

1 健都ライブラリーを中心に市民の関心の高い医療や健康問題に関する幅広い資料を収集・提供します。

2 パスファインダー（*7）については引き続き作成・改訂をし、更なる充実を図ります。また、幅広く市民に活用されるような取組を進めます。

多文化サービス

1 吹田市に在住・在勤・在学の外国人を支援するため、市関係部署と連携し、外国人利用者の図書館見学会を年1回以上実施します。

2 外国にルーツを持つ児童を支援するため、小学校や市関係部署と連携してニーズをつかみ、外国語の図書や電子書籍の提供を進めます。

3 市内の大学と連携し、留学生との交流事業を実施します。

ビジネス支援サービス

1 江坂図書館を中心に市民の経済活動を活性化するため、市関係部署と連携し、ビジネスや起業に役立つ講座を開催します。

2 市関係部署と連携を図り、ビジネス支援だよりを定期的に発行します。

3 類縁機関と連携したビジネス支援サービスが展開できるよう、協議を進めます。

就労・就業支援サービス

1 さんくす図書館を中心に市民の就労・就業を支援するため、資格取得の問題集や参考書、電子書籍の充実を図ります。また、資料利用促進のための図書館外の施設へのPRに努めます。

2 若者の社会参画や就労を支援するために、市関係部署と連携し、就労支援事業や各種講座に協力します。

3 就職・資格についてのパスファインダーを改訂します。

（1） 健康・医療情報サービス

・5種類のパスファインダーの改訂を行いました。また関連するテーマの健康医療情報講座の開催時にはパスファインダーのPRを行うほか、図書館見学の際にも紹介するなどしました。

(2) 多文化サービス

・ 千里図書館では、吹田市国際交流協会（SIFA）主催の日本語学習コース受講者の図書館見学を3回延べ26人受入れました。
・ 外国にルーツを持つ児童を支援する取組として、小学校からの依頼を受け外国語（英語・中国語）の図書を貸出しました。
・ 健都ライブラリーでは、大阪学院大学と連携した留学生とのかるた大会を実施しました。

(3) ビジネス支援サービス

・ ビジネス講座「売れる仕組みを学ぶ はじめてのマーケティング」を開催しました。今後もニーズに合った講座の開催に努めます。
・ 大阪府立中之島図書館と連携してビジネス支援だよりを作成しました。ビジネス支援の取組をアピールするために、吹田市立図書館及び中之島図書館で調べられることを具体的に記事にしました。

(4) 就労・就業支援サービス

・ 資格や検定に関する資料を、昨今のトレンドや利用者のリクエストを踏まえ選定・購入し、さんくす図書館ハロージョブコーナー及びすいた電子図書館の資料の充実を図りました。
・ ハロージョブコーナーに新しく入った資料の利用促進を図るため、図書館ホームページに新着図書の一覧を掲載しました。
・ 地域経済振興室と連携し、JOBナビすいた（就労支援センター）内に、図書館の資格や検定に関する資料のPRポスターを掲示しました。
・ 就職・資格についての調べ方ガイド（パスファインダー）を改訂しました。

（指標）関係機関との連携（連携した企画の実施回数）		
令和7年度		評 価
目 標	実 績	
4回／年	40 回／年	A

※令和7年度実績内訳：健康医療情報サービス31 回、多文化サービス 5 回、
ビジネス支援サービス3回、就労・就業支援サービス1回

【図書館協議会委員の意見】

◎パスファインダーの実践活用例みたいな形でどんな時に有用であるかについて、具体的な事例を基に紹介していくことも重要かと思います。

◎様々なサービスがあって良いと思います。パスファインダーの存在はもっと周知されるといいなと思います。

◎図書館の役割なのかどうかは分かりませんが、（4）就労・就業支援に加えて、不登校の生徒の就学支援、社会人のリスキリングのための就学支援、といったサービスももしかしたらニーズがあるかもしれません。

◎特色あるサービスとして取り組まれている分野はいずれも、特に情報の「鮮度」が実際に使えるサービスになるかどうかの鍵となる分野であるかと思います。資料や情報源の動向をキャッチアップし、パスファインダーをきちんと更新されていることは大変重要であると思います。

◎多岐にわたる関係機関と積極的に連携を図られていることは高く評価できます。それぞれの分野の市担当部署や関係機関において、市民への資料提供や施策の広報には図書館が使えると認知されることは、図書館だけでなく、市の施策推進においても大変意義があるものと考えます。

（1） 健康医療情報サービス

◎〇〇を食べたら痩せる、といったような間違った、あるいは、単純化し過ぎた情報に惑わされないような、科学・医療リテラシーを付けるような取組もあってほしいです。

◎健康・医療サービスは、市民の関心が高い分野だと思います。医療機関との連携で、講座が頻回に開かれているのはすばらしいと思います。

◎高齢者が多くなり、健康に注目が集まっていると思います。

◎高齢化社会に向けての講座企画など有意義な取組が多いので良かったです。

◎パスファインダーの改訂が進んでいて、いいと思いました。情報の更新に遅れないよう、お願いします。

◎健康・医療に関しては日々新しい情報が出てくるので、その対応は大変かと思いますが、今後も都度改訂を重ね、有用なものになればと思います。

◎前年度の点検・評価の際に、パスファインダーの認知度を上げることが必要であると感じていたが、PRの機会を設定する等の取組が行われており、効果を期待したい。

◎パスファインダーの更新とともに、パスファインダーの存在について機会をとらえて広報されていることは大変よい取組と思います。長期的な視点で取組を継続していただきたいと思います。

（2） 多文化サービス

◎多文化サービスのさらなる向上に期待します。支援という視点があることはとても大切だと考えます。

◎外国人利用者の図書館見学会、外国語図書の貸出、関係機関との連携によるイベント実施と、着実に取組を進められているものと考えます。外国人住民の方の人口が増加する中、今

後ますます重要となる分野であり、図書館の力が発揮できる分野でもあると思います。
◎多文化理解を促すようなイベント、書籍の紹介等も積極的に行っていただきたい。
◎多文化サービスをしていることを明示するため、玄関にポスターを貼っている図書館があります。吹田でも、PRして、さらに利用されるといいですね。
◎これから一番大事になってくるサービスではないかと思います。小中学校にも、日本語が苦手な子供が増えていますし、その両親がもっと日本語が苦手だったりするので、子供を通して図書館ともうまく連携できればよいと思います。語学教室をいきなり開催するのは難しいとは思いますが、そういった方向も大事だと思います。語学だけでなく、日本の文化や歴史を学ぶようなサービスも必要だと思います。
◎子供たちの幼稚園・保育園でも外国の方が増え、言葉の種類も多様です。教育だけでなく、お互いを知るための物として、本は大切なものだと思っています。
◎学校に在籍する外国にルーツをもつ児童生徒数は増加の一方であり、言葉（文字）のかべに伴う支援や課題解消に向けた取組の充実は喫緊の課題です。その中で、外国語の図書の貸出し依頼等に応じてもらえることは大変ありがたいです。
◎小中学生の外国にルーツを持つ生徒の言語活動にもう少しきめ細かな援助ができればと思いました。

（3） ビジネス支援サービス
◎ビジネス支援のために図書館が関わるということがあまり理解できなかったのですが、以前、仕事の専門的な内容について図書館で調べたことがあったことを思い出しました。
◎ビジネス支援サービスについては、特色あるサービスの中でもイメージしにくい（図書館のビジネス支援サービスで何ができるのかを利用者の方にイメージしてもらうことが難しい）部分があると思いますので、「ビジネス支援だより」において、図書館でどういったことが調べられるのかを具体的に紹介された記事はとてもよいと思いました。ビジネス講座の中でも（その前後に）サービスや資料、パスファインダー等を紹介する時間を設けられたりするのもよいかと思います。
◎これは吹田市の図書館だけでは難しそうな印象ですので、実際されているように各所との連携が鍵となると思います。
◎これから活動を増やしてほしいサービスがあります。「ビジネス支援サービス」です。図書館施設としてもっと利用していただくには、どのようなニーズが実際にあるのか、周辺企業などに聞き取り調査を行い、結果分析をして図書館ができる支援をチラシにまとめて周辺企業に配布するのはどうでしょうか。また、吹田市内にある鉄道などの運輸企業に協力してもらい、駅にポスターを掲示するなどの宣伝活動もしてはどうかと思いました。
◎興味深い講座で、高校や中学生対象にも進路学習として応用して使えるような気がしました。
◎講座については図書館の利用とどう絡めていくかというところが気になりますが、今後も続けていってほしいです。
◎「ビジネス支援だより」のおすすめ資料の一覧は良いですね。ジャンル別で分かりやすく、読んでみたいなと感じました。

◎ビジネス支援の取組アピールのために具体的な記事にする等、ピックアップにより注目トピックとして取り上げることは有効だと考えます。まずは「知ってもらう」ところから利用に繋げていただきたい。

（4） 就労・就業支援サービス

◎わざわざ自ら図書館に足を運ぶ人は、十分、活動的なので心配ないですが、そうでない人向けには電子図書館を通したサービスも重要だと思います。

◎「すいた電子図書館」で就労・就業に向けた資格や検定に関する資料を手にすることができるのは、利用者の時間的負担軽減にも繋がり、よいサービスだと考える。

◎関連資料の収集とパスファインダーの整備、収集した資料の利活用に向けた広報の取組を着実に実施されているものと思います。

サービス方針6　施設や地域との連携

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1 市内に所在する大学と連携し、図書館実習生・インターンシップの受入、留学生や司書課程受講者向けの図書館施設見学、連携行事などを行います。

2 子育て世代や児童の利用を促すため、子供に係る施設や団体との連携行事を実施し、講師派遣や出前講座を行います。

3 成人向けに、吹田市生涯学習出前講座などで司書の専門知識を生かした講座を実施するなど、図書館の魅力をPRします。

4 吹田市内にある各施設の魅力を互いにPRするため、市内施設との連携の取組を進めます。

・ 市内に所在する大学から、11回延べ164人の図書館実習、就業体験、見学を受け入れました。

・ 吹田市生涯学習出前講座は5回92人、講師派遣は11回198人の参加でした。うち児童センターは5回89人、保育所・こども園は2回72人でした。

・ 市内各施設との連携としては、図書館フェスタじゅずつなぎにおいて、山田駅前図書館で吹田市立博物館の学芸員を講師に迎えた講演会を開催しました。また、博物館との連携としては、健都ライブラリーに常設の展示コーナーを継続して設置しています。

・ 各館で他の室課の取組に対応した特設コーナーを設置するほか、山田駅前図書館では、保護者に読書の時間をプレゼントする「ひとりのびのび読書タイム」をのびのび子育てプラザと連携して実施しました。また、千里図書館では、平和祈念資料館と連携して「えほんのじかんへいわスペシャル」を開催しました。

<特設コーナーを設置した他室課の取組>

人権政策室：人権週間、男女共同参画週間　男女共同参画センター：Ｗリボンプロジェクト

高齢福祉室：世界アルツハイマー月間　健康まちづくり室：禁煙週間

成人保健課：女性の健康週間　衛生管理課：動物愛護週間

地域保健課：自殺予防週間、自殺対策強化月間　環境政策室：すいたクールアースウィーク

（指標）講師派遣回数（目標回数10回／年に対する達成度）			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
20%	100%（令和6年度派遣回数：9回 90%）	160%（令和7年度派遣回数：16 回）	A

【図書館協議会委員の意見】

◎とても良い内容に思えます。保育所から大学生・成人まで、さまざまな年代に対応した講座や実習などを行われているのだなと感じました。

◎この先、図書館は、地域課題の解決を担う「地域のハブ」という位置づけを担うようになっていくんじゃないかと思います。

◎施設連携は、取組の可能性を広げ、新たなおもしろさを生み出す要素をたくさん備えていると考えます。それぞれの特色や得意分野を生かしながら、オリジナリティあふれる取組を進めることで、各施設の魅力が増すのではないでしょうか。

◎施設や地域との連携について、市内に所在する大学からの実習・体験・見学の受入れは、図書館を知ってもらうだけでなく、認識していなかった事を知ることができるので、これからもっと周知されて参加者が増えれば良いなと思いました。

◎多様な室課との連携が進み、出前講座や講師派遣が広がっている様子を知ることができてよかったです。庁内での理解を深めるためにも、さらに連携を進めていってください。

◎講師派遣回数は大幅に増え、多種多様な機関との連携事業も開催されており、積極的に図書館サービスを外に向けて広げよう、関係機関との連携を深めようとされている姿勢を高く評価したいと思います。

◎吹田市立博物館の学芸員の講座は大変興味深く面白かったと思います。吹田の図書館の講座で、毎年開催のこの講座は、専門分野の研究者から、その知識を学び、しかも親子で参加できる体験は素晴らしいと思っています。続けてください。

◎様々な施設との連携を取られていて、特に博物館との連携講演会などは文化的に意義深く、吹田市民のニーズに合致していると思います。地域を知るなどシリーズ化するのも面白いですね。全体的にとても活発な活動がされていたと思います。

サービス方針7　市民との協働

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1　乳幼児サービスに関わるボランティア（0～3　歳向け読み聞かせボランティア）の新規養成と技術向上のために、養成講座及びスキルアップ講座を引き続き開催します。養成講座については、より参加しやすいよう回数の見直しを図ります。

2　バリアフリー読書支援サービスに関わるボランティア新規養成と技術向上のために、養成講座を今年度も継続して開催します。また、交流会や懇親会を行い、より一層の協働を進め、ボランティア団体の活動を支援します。

3　年度登録制の個人ボランティア図書館フレンズ（*8）については、PRを継続し新規ボランティアの獲得を目指します。

4　講座やイベントなどで市民を講師や演者に迎えた企画を実施し、市民の生涯学習を推進するとともに地域づくりに貢献します。

5　市民団体との連携企画を実施します。

・乳幼児サービスに関わるボランティアの新規養成講座（全5回、延べ89人参加）とスキルアップ講座（2回、86人参加）を開催しました。また各図書館における職員とボランティアとの交流会に加えて、各図書館のボランティアの代表と中央図書館の職員が定期的に意見交換を行い、活動の充実を図っています。

・バリアフリー読書支援サービスに関わるボランティアの養成講座（全40回、延べ198人参加）を開催しました。

・年度登録制の個人ボランティア、図書館フレンズは、イベント補助、館内装飾、地域資料の整理などの活動を行いました。

・市民の協力を得て、「子どもと本のまつり」、「子どもと本の講座」、「新聞ちぎり絵講座」、かがく実験を開催しました。

（指標）ボランティア総数			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
580人	養成講座定員分増 （講座定員 計50名 令和6年度実績：660人）	643人	B

【図書館協議会委員の意見】

◎指標の目標になっている、養成講座定員分増は難しいのではないか。養成講座を受けた全員がボランティア登録し、なおかつそれまでのボランティアの方が一切辞めないという条件でないと評価Aにならないのではないか。もちろんAにならなければ不十分だ、とは思いませんが、実績の人数から見て十分ではないかと感じます。それより、ボランティアの方の活動において、人数が足りないから増員が必要なのか、それとも現状維持のために毎年養成講座を行っているのか、また人数は十分にいてあまり参加しないボランティアの方も多数いらっしゃるような状況だったりするのか、実態はどうなのでしょうか。指標は人数ですが、活動状況・内容が大切かと思います。

◎図書館サービスを豊かに多彩にしていくには、市民ボランティアの協力が欠かせません。若い人と、今後ますます増える高齢者と、バランスよく活動に参加してもらえるといいですね。

◎ボランティアや地域人材の活用は、活動に対する前向きな思いがあってこそ。その思いは、活動を活性化させる大きなエネルギーになるのでは。人が集まると、まちが育つ…よい循環を生み出せればと考えます。

◎養成講座や図書館フレンズの取組を通じて、地域の読書環境の充実のために力を尽くしたいと考える市民の方々を図書館につなぎ、交流会等でボランティアの方と意見交換をしながら活動を進められている点が大変すばらしいと思います。

◎館内装飾など、とても有効に相互で協働できていると思います。目標数値に少し足りないだけで、ほぼ評価はAだと思います。

◎「子どもと本のまつり」、「子どもと本の講座」、「新聞ちぎり絵講座」、かがく実験の開催は、子供にとっての興味関心や発見ができる体験があり、大変よいと思います。

◎協議会で指摘した「掲示の見せ方」に関して、迅速な対応がなされ、スタッフの意識の高さが感じられました。掲示が整然と行われていることで、施設に入った瞬間の雰囲気が変わったのに気が付きました。

◎ 「子どもと本のまつり」「子どもと本の講座」にボランティアとして、参加しています。
図書館員と一緒に関われること、未来を担う吹田市の子供たちのための行事です。これからも協力していきたいですし、続けていただきたいと思っています。

◎「地域のハブ」となるには、生涯学習の重要性がますます増すと思います。大学との連携（大学側からみたら「社学連携」）もまだまだやれる余地がありそうに思います。

基本目標3　子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

サービス方針8　児童サービス

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1　ブックスタート事業（＊9）については、引き続き絵本配付率向上を目指し、保育所赤ちゃん会や離乳食講習会に参加し、事業の説明や絵本の配付を行います。また、取組のひとつである乳幼児向け読み聞かせ(＊10)についても、地域の方が参加しやすいよう状況に合わせて実施します。

（参考）ブックスタート絵本配付率　86.5%（令和6年度）

※配付率算出のための対象者数について、令和6年度から吹田市人口統計出生数に変更。

2　乳幼児期から本に親しむ環境をつくるために、「抱っこで絵本講座」（＊11）を地域の状況に応じ、各館1～2回開催します。

3　乳幼児から小学生が本や図書館に親しみを持つきっかけを作るため、おはなし会などの定例行事、「子どもと本のまつり」（＊12）、季節ごとのおたのしみ会などを引き続き実施します。特に学校の長期休業期間においては、「一日図書館員」（＊13）、「宿題タスケルンジャー」（＊14）などの児童向け企画を行います。

4　「ひとりのびのび読書タイム」（＊15）や「親子わくわく読書ひろば」（＊16）など本を介した子育て支援の取組を継続して実施します。

5　子供の周りの大人に対して「子どもと本の講座」など、子供と子供の本への理解を深め講座・講演会を開催し、子供の読書環境の整備を図ります。

6　YA（12～18歳）世代の利用促進を図るため、YAサポーター（＊17）などYA世代自身が参加する取組を継続して行い、本や図書館に親しみを持つ働きかけを進めます。また、YA世代向けおすすめパック等において「すいた電子図書館」のPRを行い利用を推進します。

・ブックスタート事業については、令和7年度の絵本配付率は 82.6%で、前年度より減少しました。（令和6年度：86.5%）保育所赤ちゃん会や離乳食講習会、乳幼児の保護者対象の出前講座等など、図書館遠方地に居住する対象者にも配付できるよう努めました。

・1歳の幼児と保護者対象の読み聞かせ講座「抱っこで絵本講座」は39回開催し、延べ272人の参加がありました。（令和6年度：延べ42回開催、延べ253人参加）

・おはなし会や乳幼児向け読み聞かせなどの定例行事、季節ごとのおたのしみ会などは、2,071回開催し、延べ16,311人の参加がありました。（令和6年度：2,579回開催、延べ22,288人参加）

・「ひとりのびのび読書タイム」や「親子わくわく読書ひろば」などの子育て支援の取組や「子どもと本の講座」等、子供と子供の本に関する講座・講演会を継続して開催し、子供の読書環境の整備をすすめました。
・YA（12～18歳）世代向けのサービスとしては、YAサポーター15回27人、小冊子「てくてく」編集委員会4回9人の参加がありました。また、YAサポーターが企画立案をしたおたのしみ会を開催し、多くの子供たちの参加がありました。
・本のおすすめパック「わくわくセット」（＊18）においては、本だけではなく「すいた電子図書館」の利用のPRも行いました。

（指標）行事参加者数(対象人口に対する目標割合)			
令和3年度（策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
16.2%	経年比増（令和6年度実績：36.3%）	33.2%	B

※対象人口（0～18歳）： 64,732人 行事参加人数：21,475人

【図書館協議会委員の意見】
◎読書経験は将来の読書につながる意味で誰にとっても必要であるため、家庭環境に関わらず読書が自由にできる図書館という存在を認知させる意味で児童サービスは現代においてより重要になってくると考えます。
◎児童サービスの子育て支援に対する取組や、YA世代向けのサービスについても多くの子供たちの参加があったということで、関心が高まってきており、活動の効果が出てきていると思われました。少しずつの変化になるかもしれませんが、継続した活動が必要と思われます。
◎乳幼児からYA向けの取組まで幅広く充実した取組を実施されているものと思います。
◎家庭文庫に来られる乳幼児の親子は、ブックスタートでえほんの配付を受けたと話していますし、こちらからもお知らせしています。子育て支援などの情報も、関心度が高く、若い保護者の人たちもよく市報をみています。
◎各館とも幼児コーナーが設けてあり、幼児を持つ家庭にはありがたい図書館だと思います。
◎自ら本を読むことに抵抗を感じる児童も、読み聞かせは楽しむことが多く、おはなし会等の設定は、図書館に親しみをもつために大変有効であると考えます。継続・拡大を期待したい。
◎中学生以上には漫画「文豪ストレイドッグス」（アニメ化もされている）を入口として、文学作品を読んでもらうというアプローチもあるかもしれません。
◎YA向き冊子「てくてく」の編集にYA自身が参加していて、いいものを作っていると、他市の図書館員にほめられ、うれしくなりました。YAの力を引き出すことは大変だと思いますが、引き続きがんばってください。
◎YA世代では、なかなか自習室活用以外に図書館とのかかわりを持つのが忙しい世代だと思いますが、 例えば、中学校には部活動として文芸部や委員会活動としての図書委員など

が設置されている場合があります。図書館の方から顧問に働きかけて夏休みのYAサポーターになどになってもらえばいいのではないでしょうか。

◎とても良いと思います。図書館から徐々に離れていくYA世代の利用がもっと増えるような取組があればいいのですが、とは思います。

◎「子どもと本の講座」は、子供の本にかかわる大人を育成するうえでも大切な講座です。子供たちのために必要な講座です。長く続けて積み重なり実りのあるものだと思います。この講座開催している吹田市立図書館は他市の方々からもすばらしいと言ってもらっていて、ボランティアの私たちも誇りに思います。これからも引き続き開催をお願いします。

◎電子書籍の利用については、児童の利用によって非常に増えることが実証されているようなので、継続してPRを続けていただければと考えます。

◎公民館で開催されている子供向けイベントとの連携はないのでしょうか。「公民館」への言及がどこにもないようです。

サービス方針9　子ども読書活動支援センター（＊19）

【令和7年度目標の取組状況】

（目標）

1　市立小中学校との定期連絡便（＊20）の利用促進に向けて、団体貸出の活用事例を提示するなど、より利用しやすい仕組を用意します。

2　教諭との交流や読書活動支援者への技術的サポートを引き続き実施します。

3　図書館を身近に感じてもらえるように、学校の要望に応じて、図書館見学や学校訪問、学校図書館訪問を実施します。

4　子供たちの読書のきっかけを作り、図書館の利用促進を図るため、新学期や夏休みなど学期に合わせて図書や図書館を紹介するリーフレットなどを作成し、市立小・中学生に提供します。

5　市立小・中学生の1人1台の学習用端末における「すいた電子図書館」の利用を増やすため、定期的にPRを実施するなどの取組を進めます。

6　放課後の児童の読書活動を支援するため、留守家庭児童育成室への団体貸出を引き続き行います。

・市立小中学校との定期連絡便を使用した団体貸出は27,893点、レファレンス受付数は272件でした。（令和6年度：27,591点、188件）

・小学校教育研究会学校図書館部会や教育センター主催の教員向け研修において、図書の紹介や調べ学習における情報の集め方について説明しました。

・図書館見学やまちたんけん、職業体験は、35回1,695人受入れしました。

・市立小学校1年生にリーフレット「新小学1年生向け利用案内」、市立小・中学生全員に「もうよんだかなミニ版」「てくてくミニ版」を配付し、図書館のPR及び本の紹介を行いました。

・図書館電算システムの更新にあわせ、市立小・中学生の1人1台の学習用端末における「すいた電子図書館」の利用方法に一部変更が生じたため、利用の変更の説明とあわせて利用方法の再周知を行いました。
・留守家庭児童育成室への団体貸出を引き続き行い、25,690冊の図書を貸出しました。
（令和6年度：26,226冊）

（指標）学校への団体貸出冊数			
令和3年度 （策定時）	令和7年度		評 価
	目 標	実 績	
25,978冊	経年比増 （令和6年度実績： 30,543冊）	29,605冊	B

【図書館協議会委員の意見】
◎学習用端末の普及でだいぶ図書の利用の仕方も変わったのかなと思います。個人的には紙の本という「物」にももっと触れてほしいけれど、文章を読むという体験のためには役にたっているのだろうなと思いました。
◎大人に直接働きかけることは難しいですが、子供が図書館に通うようになったら、保護者もカードを作って自分でも借りたりするようになるので、子供を図書館に向かわせることが大事だと思います。
◎学校への団体貸出冊数が指標になっていますが、もっと図書館を利用してもらえるよう、授業での具体的な活用事例を紹介したらどうでしょう。
◎指標の「学校への団体貸出数」では前年度より減少したとのことでしたが、市立小中学校との定期連絡便を使用した団体貸出、そしてレファレンス受付数は前年度より増加したとのことで、学校へのサービスは高い水準で維持されているものと思います。
◎学校への団体貸出や定期連絡便は、とてもありがたいです。
◎市立小学校に入学したピカピカの1年生に対して、図書館のリーフレットの配布、図書館のPR・本の紹介などの実施についても、本の興味をますます持ってもらう活動はとても効果的と思われます。さらに1年生の校外学習などで、図書館見学があるといいなと思いました。
◎吹田市の「もうよんだかな」など子供たちが、夏休み文庫を開催すると手に持っています。よく利用しているようです。大きさもよく、手元にもっていたいのだと思います。
◎「もうよんだかな？」や「てくてく」は、書籍を選べない児童生徒にとって、選書のきっかけや参考になる魅力的なアイテムである。上質な紙で冊子が作製されており、立派な仕上がりであるが、材料のクオリティーを少し下げるなどして費用を抑え、発行回数を増やすことも期待したい。
◎ボランティアとして子ども文庫に関わっていますが、子供の数の減少や母親の就労増加により、文庫に関わる人や文庫の数が減少しています。その中で、文庫への支援を継続していた

だいていることに深く感謝いたします。文庫に来る子供の数は以前より少ないものの、ここのところ少しずつ増えており、保護者もふらっと訪れることが増えています。

現代は、PCやタブレット、携帯端末などで簡単に回答を得ることができ、AIを上手に使いこなす子供たちも増えています。一方で、そのことに疲れている子供も少なくないのではと思っています。文庫では、人と人が直接向き合い、本を通じて笑ったり、感動したり、考えたりして、正解を求める必要はありません。遊びもゆっくり手づくりのプロセスを愉しみ、子供たちがほっとしているように見えます。こうした「ただ本と誰かがいるだけの場」が、今だからこそ必要だと感じます。

◎学校においても、一人1台端末（iPad）有効活用の1つとして「すいた電子図書館」の利用を促していきたい。

◎学校と連携して、夏休みに地域の図書館で本を借りて、その本の帯やポスターを制作するなどの活動はどうでしょうか。

◎本屋大賞にちなんで10代が選ぶ「図書館大賞」を設置して夏休み限定で比較的新しい本などの中から選ぶなどの取組をしてみては。

【令和7年度吹田市立図書館の運営について（講評）】

◎全体的に大きな問題点もなく、順調に活動されているように感じました。
吹田は本当に図書館や児童センターなどの公共施設に力を入れている都市なのだと感じます。行事や取組などを積極的に行っている館が多数ある一方、名前の挙がらない館もあることが気にかかっています。千里丘図書館も訪れたのですが、日や時間帯にもよるとは思いますが、人の出入りが少ないな…という印象でした。人口は多い場所だと思いますので、市民が立ち寄りたくなるような行事などあるといいなと感じました。

◎ここ数年、ウェブサイトのリニューアルや電子書籍の拡大など、オンラインでの利用がどんどん便利になってきたと感じています。私も一利用者として利用していますが、ウェブサイト内での蔵書検索や配架位置のマップの表示、利用者カードの提示など本当に便利です。
将来的には、本を検索したときに「その本が好きな人はこちらもおすすめ」みたいなおすすめの表示があれば、新たな本との出会いも楽しめたり、調べ物でも関連書籍に辿り着きやすくなったりして良いのではと思います。

◎AI時代の図書館（特にレファレンス）のあり方、と、地域の知識の拠点としての展開方法、がこれから議論していくべき課題かなと思いました。

◎貸出し点数の減少について、例年より休館日が多かったことが原因としてあげられていますが、日数でいうと3%程度なので、それだけでは説明できないのではないでしょうか。本の定価が上がっているもとで、購入冊数が減ったことも、貸出しの減少につながっていると思われます。資料購入予算が増えることを願っています。その際、人口レベルが同じで、貸出しが多い自治体がどれだけ資料費を持っているか、比較してみるのが効果的ではないかと思います。吹田市は、少ない資料費で貸出しが多い、かなり効率がいい図書館ではないでしょうか。
吹田市民の高い読書要求にこたえるためにも、がんばってほしいです。

◎全体的な図書館活動の印象として、裏で大変な御苦労を重ねながら活動されているということ、どのようにすれば、市民の方々に図書館を利用してもらえるのかなど、常に多方面から考えながら、活動されていることが良くわかりました。おもてには見えない努力、感動いたしました。

◎毎回思う事ですが、成果を数値だけでなく、中身でその努力を測れる方法はないのかと思います。誰にも納得のいく方法がこの数値で表すものかと思いますが、それだけでは見えないと思っています。評価は難しいです。私たちに見えていることはほんの一部でしかないです。
もっと図書館のことを学んでいかないといけないと思っています。

◎図書館活動について、さまざまな視点から企画・運営されていること、また、それぞれの事業（取組）の意図や継続・拡大の難しさ等、現状の成果・課題が明示され、さらなる向上に繋げるべく業務遂行に尽力されていることがよくわかりました。

◎前年度の結果（実績）を受け、課題については改善・解消に向け、できることを確実に生み出し、積み上げていることがわかりました。小さな取組であっても、ゼロがイチになれば、変化に繋がる。行きつ戻りつということもあるかもしれないが、決して後ろ向きでなく、前を向いて進んでいると感じました。

◎令和7年度は全体的に目標数値にもう少しという数値になりましたが、これはサービス方針1に記されているようにシステム更新のための長期休館の影響を多少なりとも受けたためではないでしょうか。

◎細やかな多方面での取組などはもとより、よりよい図書館の在り方に近づける具体的な策を練るための資料の作成など、吹田市立図書館の前向きな前進を感じさせる活動内容だったと思います。

◎評価指標では、右肩上がりの経年比増を目標値としている項目が多いため、B評価のものが多くなっていますが、高い水準をキープされており、令和7年度も充実した活動を実施されたものと考えます。全体を通じ、図書館から積極的に市役所各部署や関係機関、そして市民の皆さんに働きかけ、連携を深めておられる姿勢が印象的で、図書館の活動が吹田市のまちづくり全体にとっても大きな要素になっているものと感じました。それを支える着実な資料収集・提供の活動、新たに策定された「人材育成方針」に基づく人材育成といった図書館の基盤を一層充実させ、引き続き積極的な取組を展開されることを期待します。

◎市立図書館について知らないことがたくさんありました。適切に目標を設定され、丁寧に取り組んでおられるということがよくわかる内容でした。紙と電子、それぞれの媒体の良さを生かしながら、市の図書館がさらに使いやすいものになればと思います。

図書館語句解説

＊1 レファレンス(サービス)

何らかの情報あるいは資料を求めている図書館利用者に対して、図書館員が仲介的立場から、求められている情報あるいは資料を提供ないし提示することによって援助すること。調べ方を教えたり、関連する機関を紹介するなど、司書が個別的に援助する諸業務全体をさしていう場合もある。

＊2 行政支援サービス

図書館が自治体の政策立案や行政事務に必要な情報・資料を収集し提供すること。

＊3 サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）図書館

全国の点字図書館や公共図書館が製作又は所蔵する本の点字データや音声データを集積し、視覚障がい者などがパソコンや携帯電話でダウンロードすることにより利用できるようになっている。また全国の図書館が所蔵する約66万タイトル以上の資料のデータを利用することができる。

＊4 デイジー図書

国際標準規格である DAISY（Digital Accessible information System）フォーマットによりデジタル録音された電子書籍。「音声デイジー」は、パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して、活字本を読むような形で耳からの読書が可能。専用の再生機(プレクストーク)や再生ソフトで聞くことができ、見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みもできる。他にも、合成音声で文字を読み上げたり、文字を大きく表示したりできるテキストタイプの「テキストデイジー」や音声と一緒に文字や画像が表示される「マルチメディアデイジー」がある。

＊5 さわる絵本

視覚障がい児などが触覚で鑑賞できるように、絵本を原本にして、フェルトや皮、毛糸など様々な素材を使って絵の部分を半立体的に表現して製作された絵本。

＊6 吹田市生涯学習出前講座

吹田市の仕事やこれから取り組もうとしていることを、市職員が直接出向いて話す事業。吹田市立図書館では「親子で絵本とわらべうた」「図書館使いこなし講座」などのメニューを提供。

＊7 パスファインダー

ある特定のテーマについて、資料や情報を探すための手順を簡単にまとめたもの。

＊8 図書館フレンズ

平成24年(2012年)から個人登録のボランティアとして図書館が募集し、活動しているグループの名前。

＊9 ブックスタート事業

絵本を介して赤ちゃんと家族の絆を深め、心豊かな成長を支援することを目的とする活動。イギリスのバーミンガムで1992年に始まった。吹田市では図書館と保健所が協力して実施。4か月児健康診査等の案内時にお知らせを同封し、図書館に来館した対象者に絵本を1冊贈っている。

＊10 乳幼児向け読み聞かせ

ボランティアグループの協力のもと、0・1歳の乳幼児と保護者を対象とした「ブックスタートのひろば」、2・3歳の幼児と保護者を対象とした「おひざで絵本」で、絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうたの実演を行っている。

＊11 抱っこで絵本講座

1歳児とその保護者を対象とした絵本の読み聞かせについて学ぶ3回連続の講座。読み聞かせの意義や年齢に合った絵本の選び方、読み聞かせの方法を図書館司書が解説する。実際に親子で絵本を読み、読むスピードやページをめくるタイミングなどを具体的に学ぶ。

＊12 子どもと本のまつり

子供に本を読む楽しさや喜びを知ってもらうために、毎年4月23日(子ども読書の日)から約1か月間、講演会や工作教室、おはなし会などの子供向け行事を全館で行っている。

＊13 一日図書館員

学校の夏休み期間中などに、小・中・高校生を対象とした図書館の仕事を体験する取組。

＊14 宿題タスケルンジャー

小・中・高校生に向けてレファレンス・サービスを周知するため、学校の夏休み期間に合わせて、宿題のための本を探したり、調べかたのコツをアドバイスする。

＊15 ひとりのびのび読書タイム

山田駅前図書館とのびのび子育てプラザとの連携事業。のびのび子育てプラザが子供を保育している間、保護者は山田駅前図書館でゆっくり本を読んだり、借りる本を選んだりする。

＊16　親子わくわく読書ひろば

就学前の乳幼児と保護者が千里図書館多目的室に集まり、周囲を気にせず絵本や紙芝居等を楽しむ行事・イベント。

＊17 YAサポーター

図書館で活動する市内在学・在住の中学生から18歳までのボランティア。本の整理や掲示物の作成、絵本の読み聞かせや工作教室といった行事の補助などを行う。

＊18 わくわくセット

テーマに沿った本をセットにして貸し出す取組。例年、年始に「としょかん福袋」と称して実施しているが、令和7年度は図書館電算システム更新に伴う休館のため、12月に名称を変えて実施。

＊19 子ども読書活動支援センター

学校、幼稚園、保育園、児童会館、児童センターとの連携を進めるため、令和3年度(2021年度)に中央図書館に担当を設置した。子供の読書活動に関わる団体などへの支援を包括的に行っている。

＊20 市立小中学校との定期連絡便

子ども読書活動支援センターから、市立小・中学校に向けて定期連絡便を運行し、団体貸出の図書の配達、回収等を行っている。